

第6回 武蔵野市生涯学習計画策定委員会 議事録

日時 令和元年9月12日（木）17時30分～19時30分
会場 武蔵野プレイス4階 フォーラム
出席者 板垣文彦委員、宇佐見義尚委員◎、北村淳子委員、助友裕子委員、嶋田委員、
白田紀子委員、花田吉隆委員、牧野篤委員○、松村勝人委員、斉藤愛嗣委員、
福島文昭委員
◎委員長、○副委員長

資料 資料1 武蔵野市生涯学習計画 骨子案
資料2 第5回委員会での主なご意見と対応

次第

1 計画の骨子案について

事務局より、資料1・資料2を用いて第5回委員会からの計画骨子の変更点について説明を行った。

第5回委員会の意見とその対応について

委員長 資料2に示された意見とその対応について、気になることはあるか。

委員 骨子案2頁の「計画の目的」の冒頭では、個人と社会を結びつけることが目的であると書かれていると理解した。ただ、生涯学習を振興する目的は、結びつけるだけではなく、個人が豊かな生活を送るための補助をすることもあるはずだと考える。一面的な記述になっているように感じたが、いかがか。

委員 いまの発言の趣旨は、個人の豊かさを保障するだけでよいということなのか。

委員 行政が個人の生涯学習を支援することでコミュニティが豊かになる側面はあると思う。ただ、社会を視野に入れなくても、個人が豊かになるかぎりでもよいと思う。書かれている内容を否定するつもりはないが、追記した方がよいと考えている。

副委員長 生涯学習という言葉で書かれているが、個人の行為と行政が提供する機会が混在しているように思う。行政からすれば保障だが、個人から見ると個々の活動である。それを書き分けてもらえるとよいと思う。

委員 この計画は市民に向けたものか、それとも行政内部の資料か。計画には市民が何を望んでいるのかが書かれていない。そのため武蔵野市でなくても通じる文章になっている。武蔵野市らしさを考えるべきだと思う。将来どのようなになるとよいのかを考えるべきであり、それに向けて何をすべきなのかを書き込むべきだ。そうでないと計画にならないのではないか。

委員長 市民の生き生きとした姿が見えるような計画にしたいと考える。そのための検討はしていきたい。

基本理念について

委員長 本日は共通理念について重点的に議論したい。

委員 骨子案「本市の特色と課題」のうち、F～Jが課題であり、そのなかでH～Jが特に重要だと考える。花田委員の意見はH・Iにかかわり、副委員長の意見はJにかかわるのだろう。このH～Jに回答を与えることが基本理念になるべきだと思う。両方の視点を入れる方がよいと思う。ただ、第2回の副委員長の講義をふり返ると、自立が孤立につながる社会であることを踏まえて、相互承認と対話的学びを通じて自己肯定感を高めること、そして対話的学びを通じて社会に信頼が生まれるということを提起された。Iで述べられているのは強い個人にならなければいけないということだ。ただ、それを行政が応援することだけでよいのか。信頼社会という言葉もあるが、そのような関係づくりを行政が応援する必要があると思う。そう考えると、基本理念の根幹はJであるべきだと思う。

委員長 行政が市民に何らかの行動を強要するような時代ではないと思う。行政の立場、市民の立場も考えていくべきなのだと思う。

委員 自分もH～Jは気になっていた。これからの行政は、個人に具体的な何かを提供するのではなく、市民が何らかのアンケートに応えると、それに応じて必要な行動を働きかけがあるとよいのだと思う。
計画の評価は難しいと思うが、次期計画では試行錯誤していければよいと思う。

委員 たしかにH～Jは重要だと思うが、豊かな未来を感じさせる内容となっている。ただ、現在は危機的なところもある。個人が埋もれてしまい、孤立化している時代である。そのなかで求められるのは、メンバーが認めてくれる関係なのではないか。H～Jにくわえて、個人が孤立化する、省みられない社会となっているということが書かれてよいと思う。武蔵野市では所得格差はことさら取り上げなくてもよいかもしれないが、社会全体では格差が大きくなっている。それが社会的なつながりにも反映されている。そういった状況を生涯学習の観点からもアプローチした方がよいのではないかと思う。

委員長 H～J、特にJを根幹とした基本理念とすることについて意見を伺いたい。
孤立化の問題を追加した方がよいという意見があったが、他にいかがか。
副委員長 最終的にどこに収斂したらよいのかという議論をした方がよいのではないか。どのようなまちになればよいのか、ということを実践に書き込むこともできると思う。お互いが配慮しながら、地域の信頼感を高めていくことを目指すことは、自治体の持続可能性を高めていくということでもある。

また、このまちに住んでよかったという満足度にもなる。その観点から意見を述べると、自治と共助で生活を成り立たせていながら、武蔵野市をつくっていくということをベースにしてはどうかと考える。そして、それを次の世代に送っていくということが大事だと思うが、いかがか。

委員 H～J、特にJを根幹にすることには賛同する。その上で、別の観点から意見を述べると、現在の計画と新しい計画の体系図は似ているが、新しい計画の基本方針「学びをおくる」の支援」が、現在の計画の多くがつまっている。その多くにおいて、縦・横・ななめに学びを送る部分が込められていると考える。現在の計画の理念は「ともに学び、つなぎあう ひと・まち・文化」で、新しい計画でも同じような内容になると思う。ただ、今回は、どのようにつなぎあうのかが深められるとよいと思う。

委員長 基本理念の副題をつけるかどうかでも議論してもらいたいと事務局から打診があった。それについては、いかがか。

委員 キャッチコピーを打ち出すなら、よく考えるべきである。現在の計画のものであれば、必要ないようにも思う。基本理念に書くべき内容は、生涯学習の観点からみた個人と社会の関係のあるべき姿だと思う。それが伝わるような内容になればよいと思う。

委員 これまでの意見を踏まえると、信頼感の高い社会をつくり、住んでよかったと思うまちをつくっていくことが重要なのだろう。それを前提とすると、「認め合う」というキーワードがあると思う。つながり、認め合い、豊かなまちになっていくという内容を表現できるとよいと思う。

委員長 社会の寛容さがなくなっていると思っている。それが何から由来するか分からないが、異質なものに対して寛容さのある人が増えればよいと思う。

ところで、先ほどの意見はキャッチコピーをつけない方がよいということか。

委員 無理にキャッチコピーをつける必要はないと思う。

委員 キャッチコピーは市民向けに発信するからつけるのだと思うが、計画書がそのような内容になっていないので矛盾すると思う。

委員 内容が硬いようなら、逆にキャッチコピーがあった方がよい。

委員 多くの人を読みたいと思うようなものであればよいと思う。

委員 基本方針で、学びをえらぶ・はじめる、ひろげる・つなげる、おくるは分かりやすい。送るという考え方はこれまで使われてなかったが、武蔵野市の市民活動があったからこそ出てきた考え方ではないか。平たい言葉で、その部分を表現してもらいたい。

委員長 これまで生涯学習施設が地域的に偏っているという意見が出されてきたが、コミュニティセンターは全域的に配置されているが、それでは不足だということなのか。

委員 武蔵野市では、コミュニティセンターは生涯学習施設ではないという位置づけである。生涯学習におけるコミュニティセンターの位置づけが明確になればよいが、市民活動と生涯学習の違いも明確でない。

委員長 コミュニティセンターの位置づけを変えていくことも検討する可能性もあるだろう。

副委員長 骨子の冒頭で第9次の地方自治法に触れられているが、背景を説明した方がよいと思う。過去5年間でも、3つの中教審答申が出て、学校教育を組み替えをするものだった。地域はもっと子どもにかかわるべきだという考え方である。新しい学習指導要領も同様の考え方である。子どもが地域で活動し、人生の主役になってもらおうと考えている。社会教育施設を一般行政に移管することも、そもそもは稼ぐことを求められたが、本質的には一般行政の範疇である地域活動との関係をつくっていかうという考え方をとった。いわば住民自治を目指していかうという考え方である。結果、一般行政に移管したが、社会教育施設として利用することが前提となっている。

コミュニティセンターもふくめて、様々な施設を生涯学習施設として位置づけ、生涯学習をつうじて、住民自治を高めていくということも考えられるのではないか。

委員長 コミュニティセンターの運営のあり方を変えることは難しいのか。

委員 5Pに「小中学校やコミュニティセンターでも生涯学習の機会を提供されています」と書かれている。コミュニティセンターは自主運営であることを尊重しながら、生涯学習施設としてみなそうとしている。施策のなかでも市民活動と生涯学習をつなげていかうとしている心意気を感じるが、具体的には書けないのかなと思う。それなら考え方として3-2市民活動と生涯学習分野の連携のコンセプトとして書き込んではどうか。

委員長 よいアイデアだと思うので、事務局で検討いただきたい。

その他

委員 現在は高齢化が進んでいるが、高齢者が武蔵野市で何ができるのかが関心がある。行政が機会を提供するのではなく、市民が自主自立して活動していくべきだと思う。ぜひ高齢者のことについてはもっと触れてもらいたい。武蔵野市では地域で活動したいと思う高齢者が多いので、そのような高齢者が力を発揮できるような仕組みを考えるとよいと思う。

委員 いまの意見は賛同する。骨子P26に「高齢者の多様化に伴う事業の再編」に書かれている内容だと思う。高齢者というと固定的なイメージが取れがちだが、人生100年時代においては様々な高齢者がいると思う。それを多様化というのだと思う。市民が自主的に活動していくことが望ましいと思うのだが、そうだとするとP19のAの記述が気になる。学びの意欲が多いか

ら、学びの機会を提供するのか。行政がサービスを与えるイメージが喚起される。武蔵野市においても財政的な配慮はすべき状況になっているので、サービスを提供するばかりではなく、武蔵野市民の力を信頼するような姿勢があってもよいのではないか。

副委員長

先ほど、教えたいというニーズを持っている市民がいるという意見があったが、学び送りをおたがいに行うような取組があってもよいと思う。サービスを提供するばかりではなく、自分たちが学び合う、学び送り合うような場づくりなどがあってもよいと思う。さらに、まちをつくっている当事者であるという意識を持つようになるという認識にも立てるとよいと思う。学びを送り合い、わたしたちがつくる文化・まちというイメージになるかと思うが、検討したいことである。

委員長

学ぶ先に何があるのかという議論をしたことがあるが、それは共生社会ではないかという結論になった。そうだとすると「共に生きる」とはどういったことなのか。それを思い描きながら、学び続けていくということなのではないか。

委員

アメリカでは学びたい人と教えたい人のマッチングをすることが多い。ただ、武蔵野市がマッチングするというよりも、市民自らがマッチングするということがイメージされていると思う。成人向けの健康教育のプログラムをみていると、価値あることを学ぶと伝えたいと思うようになることが定量的にわかっている。学び続けると人に教えたくるので、それをつなぐ人をどのように育てていくのかを考えるべきなのだろう。

委員

ある学校で、地域でそろばんのできる人に学校で授業をするという例を聞いた。まさに学び送りだと思う。きっかけがあれば地域の人も動き出せるが、きっかけがないのだろう。ただ、きっかけをつくらうにも、きっかけがあって動ける人がどれぐらいいるのかが分からないといけない。意識を反映した社会になるといいと思う。

委員長

市民のニーズというが、的確にとらえるということはアンケートではできないと思う。どのようにニーズをとらえるべきだと思うか。

委員

地方では公民館主事は社会教育主事がニーズをゆるやかに捉えており、それをもとに事業が企画されている。ただ、武蔵野市ではそのような立場の人はいない。

副委員長

アンケート調査をすることが多いが、ニーズは何かということから議論すべきだと思う。国においても生涯学習を個人の必要とすることを学ぶことだと定義したが、個人の必要とするものとは何か問われる。たとえば英語を学ぶニーズを持っている人は、個人として持ったのか、それとも社会環境からニーズを持つに至るのか。それで国では社会への還元を言い出した。

ニーズ調査をするというよりも、人と人のネットワークのなかで教える

-教えてもらうという関係が生まれていくようなイメージがよいと思う。
そのようなアレンジを生涯学習で取り組んでいくこともあり得ると思う。
ニーズを把握するよりも、関係性のなかで・・・

委員長
事務局
委員長
事務局

武蔵野市では、どのように市民のニーズを把握してきたのか。
アンケートを行っている。
市の職員が現場で市民の声を聞くということはあり得ないのか。
生涯学習・スポーツ課の事業では、事業参加者にアンケート調査を行っている。施設も利用者向けにアンケートをしている。

委員

武蔵野プレイスではボランティアが情報交換をするような機能があると思う。そのような仲介機能を、市の事業としても取り組んではどうか。また、そのためには教えたいというニーズをもった人を組織するということがあり得ると思う。P30は「イベントや講座に参加した人が講師となって…」と書かれているが、参加者でなくてもよいと思う。講座に参加した人は学びを送りなさいと言われてるように感じる。そのような限定はなくした方がよいと思う。

委員

P31に武蔵野プレイスにおける機能連携の強化が位置づけられている。武蔵野プレイスはプラットフォームだと思う。趣旨としては賛同できるので、より具体的に書いてもらいたい。

委員長

武蔵野プレイスが輝きすぎていて、他の施設が埋もれているという印象もある。他の施設にも目を向けて議論をしてもよいのではないか。

委員

先ほど生涯学習施設が地域的に偏っているという意見があったが、武蔵境周辺は武蔵野プレイスとふるさと歴史館ができるまで、何もなかった。それで目立って入るが、中央には体育館があり、吉祥寺には美術館や劇場がある。様々な学びを選択できることが武蔵野市の特徴だと思う。

委員長

前市長はコンパクトシティという考え方を持っていた。コミュニティバスなども運行し、地域の差を克服できるのではないかと思うが、いかがか。

委員

生涯学習という名がついた施設は地理的に偏っている。そのため市民に生涯学習という言葉は浸透していない。生涯学習計画なので、生涯学習という言葉が広まらないといけないのではないか。市民に伝わらないといけないと思う。

委員長

生涯学習を市民に浸透することは大事なテーマだと思う。

委員

生涯学習を盛んにするのであれば、武蔵野プレイスのほかにもう1館、生涯学習施設があってもよいのではないか。

委員長

最後に発言のない方にぜひお願いしたい。

委員

世代や置かれた立場でいろいろな考えがあるのだと聞いていた。P30に次世代の地域の担い手の育成で気になることがある。リーダー育成の先に地域に還元することを検討すると書かれているが、どのようになるのかと思う。現場でかかわる立場としては、実際のところうまくいっているのかと

心配する。

委員長 その他にいかがか、

委員 先ほど意見のなかで出た「学び送り合い、私たちがつくるまち」という趣旨はよいと思う。

副委員長 武蔵野プレイスの前にビアガーデンが出ているが、あのように施設の外にアプローチをしてはいかがか。施設の中だけでなく、外に出て行くことで、これまでかかわってこなかった市民とのつながりもできるのではないか。

2 事務局からの連絡

事務局より、次回策定委員会の日程、ならびに社会教育フォーラムの概要について説明を行った。